

住民主体で福祉のまちづくりを推進する情報交流紙です

よつ葉のクローバー KIKUSUI

No.12 2008.8.25

菊水福祉のまち推進センター運営委員会
札幌市白石区菊水6条4丁目3-10
電話 011-887-7006 FAX011-887-7006



福まち通信

平成20年度第1回福まち研修会開催



8月22日午後1時、菊水地区会館で今年1回目の福まち研修会が開かれました。研修のテーマは「イザという時の地域の支えあいー災害時における自助・共助ー」で、講師に市役所保健福祉局総務部総務課長村山英彦氏をお迎えしました。

札幌ではここ数十年大きな災害に見舞われることなく平穏に暮らしていますが、全国では



村山課長

最近でも大きな地震や水害などの自然災害が幾度もおきています。そのときのために、一人ひとりが必要な備えをしておかねばならないと同時に、過去の災害から学んだ災害弱者とも言うべき「災害時要援護者(高齢者・障害者・妊産婦・児童)」の救済体制を整えておかねばならないのです。

札幌市では今年の3月に「避難支援ガイドライン」を定めました。この研修会の目的は、その趣旨を学び、地域での要援護者の避難支援体制をどのように備えるべきなのかを考えることでした。町内会役員、民生委員、その他の団体関係者約60名が参加し、熱心に耳を傾け、メモを取っていました。



研修風景

福祉のお仲間訪問

菊水地区には、福祉に関するいろいろな社会資源があり、それらの一つひとつ

に福祉のために頑張っているお仲間がいます。第8号では老人福祉施設をご紹介しましたが、第12号では障がい者福祉施設のうちの知的障がい者施設2箇所と関連事業所、それと身体障がい者が運営する事業所を訪問してみました。

菊水ワークセンター

一条橋を渡りまっすぐ南へいくと、スーパーマーケット「アークス」に突き当たります。そこの丁字路の右角にある2階建ての近代的な建物が「知的障がい者通所授産所菊水ワークセンター」



現在の菊水ワークセンター

です。古くから菊水にお住まいの方には、昔、保健所や東福祉事務所があった所とか、図書館があったところですよと言えば分かっていただけるでしょうか。？…



中原施設長さん

そうです、今から36年前、札幌市が政令指定都市に昇格したとき、そこにあった保健所や東福祉事務所は、今の白石区役所に移っていきました。そして、その跡は図書館と身体障害者相談所に転用されたのです。それから年月がたち、図書館は東札幌に新築移転し、身体障害者相談所も西区に新築された身体障害者総合センターに移転していきました。図書館は解体されましたが、身体障害者相談所は「札幌市手をつなぐ親の会(現・手をつなぐ育成会)」に貸与され、その法人事務所や作業所に使われることになったのです。その法人事務所が東区に新築移転したそのあとに、平成5年9月1日菊水ワークセンターが誕生したのです。



昔の菊水ワークセンター

平成16年4月、建物の老朽化に伴い1億2千万円で同地に施設を新築しましたが、菊水で事業を続けてから今年で16年目になります。今では事業規模を年々拡大させて、西区や中央区に分場を設けて利用者定員65名の施設に発展しています。

菊水ワークセンターは、社会福祉法人「札幌親会」が運営し、普通の職場で働くことのできない知的障がい者に、社会参加の場を提供している施設です。通所施設ですので利用者はそれぞれ交通機関を利用して通ってきています。利用者の中には親に送ってもらったり、ヘルパーに送ってもらう人もいますが、大部分の利用者は毎日自分で通います。地下鉄を利用する人が多いので、施設

の行き帰りに元気のいい利用者の姿がお目に留まっていることと思います。

施設の始業時間は9時で、午後4時に終わります。授産事業の内容は、ボルト班、リースキン班、タオル班、自主生産班に分かれています。ボルト班は、色々なボルトやナットを一定の数量に分けて袋に仕分けします。数を間違えないように点検し検品も慎重に行います。リースキン班は、洗濯の終わった化学雑巾の再生品を整形し

札幌市手をつなぐ育成会とは

知的障がいのある子を持つ親たちが、子どもの幸せのために組織した団体で、全国手をつなぐ育成会との連携で運動を全国展開しています。「一人も孤立在宅させない」を合言葉に小規模な作業所の整備をしてきましたが、その運動の成果として、昭和61年会員の拠出金により福祉施設を運営する社会福祉法人「札幌親会」が誕生しました。菊水ワークセンター始め5施設10のグループホームなどを運営しています。平成14年には、姉妹法人として社会福祉法人「朔風」が誕生し、活動の質を増やしています。



ボルト班



リースキン班



タオル班

て袋に入れる仕事です。立ったままの仕事ですが、積みあがったリースキンが次々と新しい製品になっていきます。タオル班は、タオルを一枚一枚折って袋や箱につめる作業です。タオルを折る人、袋につめる人、セロテープで封をして最後にダンボールに詰める人などの流れ作業で行っています。自主生産班は保健所から折り紙がつくほどの清潔な部屋で、お菓子のクッキーやマドレーヌを焼いています。原料を精選していますので美味しいと評判がよく、地下街の「元気ショップ」や札幌駅の「福祉ショップいこ〜る」などの売店

で売っていますのでお求めいただいた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。ワークセンターでも販売していますので、どうぞご利用ください。

どの班も仕事中は手馴れた真剣な態度で作業をしていますが、休憩時間やランチタイムの後は、



自主生産班

皆さん嬉々としておしゃべりを始めます。歌ったり踊ったり、ゲームをしたりビデオで笑ったり、施設が爆発するのではないかと思うほど元気で楽しい仲間同士の交流が続きます。

中原施設長さんは、「障がい者が地域で暮らすためには色々な問題が多く、特に働く機会が非常に制限されているのが現状です。障害年金のほかには一定の収入が保証されていて、ホームヘルプサービスなどの介護があり、地域の方々のご理解があれば、一人で生活することができる障がい者は沢山います。菊水ワークセンターは、お蔭様で従来から地域の皆様方のご理解を頂き、南連町の夏祭りには売店の出店をさせて頂いたり、のぎく公園で行う札幌手をつなぐ育成会主催のふれあい祭りには、沢山の地域の方に参加して頂いています。この機会に改めて厚くお礼を言わせて下さい」と、地域の皆様のご支援に感謝されています。

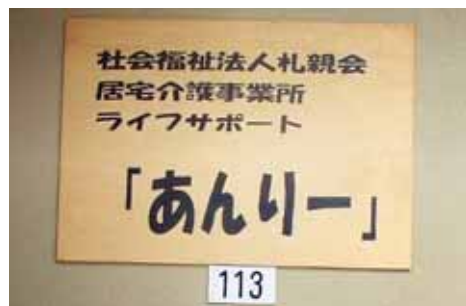


連絡先 菊水1条4丁目 5-1 ☎831-6161



🍀 ライフサポートあんりー

この事業所は、障がい者自立支援法により設置されている「居宅介護支援事業所」で、社会福祉法人「札幌会」が運営しています。障がい者が施設にばかり頼らずに、地域で自立して生活していけるよう支援するのが、この事業所の役目です。3名の常勤職員と、約50名の登録ヘルパーが働いています。



この事業所が提供できるサービスは、居宅介護、重度訪問介護、行動援護、移動支援などです。居宅介護(ホームヘルプ)とは、炊事・洗濯などの家事援助通院介助や役所などへの付添い介助です。重度訪問介護は、寝たきりとか重度の運動障害を持つ人に対する排便・入浴などの身体介護を言います。行動援護・移動支援とは、買い物やその他の外出に同行し援助することを言います。



斉藤所長さんは言います。「私たちの提供するサービスを上手に使って、少しでも普通の生活を安心して送って下さることができれば嬉しいですし、そのために職員一同一生懸命にサービスさせていただいています。安心して便利に使っていただけるよう事業所名を『あんりー』と名づけました。」

連絡先 菊水1条4丁目 1-41 グラウンドール菊水 B113号室 ☎822-0082

🍀 小規模授産施設ハウメイ



地下鉄菊水駅の4番出口、コンビニ「セブンイレブン」の隣に、小規模授産所ホームメイという大きな看板を掲げた小さな施設があります。NPO(特定非営利活動)法人「ホームメイ」が運営する授産施設です。今から22年前の昭和61年に当時豊平にあった札幌市立豊明高等養護学校の父母の会が協力し合って創りあげました。学校



を卒業しても知的障がい者であるために、なかなか就職がうまくいかない人たちの、就職が決まるまでの一時的な作業所として発足しました。現在までに、同校の卒業生延100名がこの施設を利用して巣立っています。現在は13名の利用者が、市内の大手菓子製造業者の菓子箱の組み立てやシール張りなどの作業をしています。

この施設の職員は、非常勤の所長をはじめ、同じく非常勤の男性職員と常勤の女性職員の3人で支えています。

所長の渡部弘さんは「利用者が一生懸命に頑張り納期を間違



いなく守るから、仕事の信頼はとても厚いですよ。」とって胸を張っていました。

連絡先 菊水3条3丁目1-47 ☎842-3805

✿ 障害者自立生活センター



花田体表さん

地下鉄6番出口の斜め前、五叉路の一角を占める建物に大きな看板が揚っています。有限会社「エンパワーオフィス」とNPO法人「障害者自立生活センター」の代表花田貴博さんに会ってきました。

この事業所は、前出の「あんりー」と同じ障がい者自立支援法により設置されている



事業所正面

「居宅介護支援事業所」で、障害者が地域で自立して生活するためのサービスを提供する仕事をしています。それに併せて、障害者の自立生活上のいろいろな相談や必要な情報提供を行っています。この事業所の最大の特徴は、オフィスで働いている皆さんがすべて障害者であるということです。

代表の花田さんは筋ジストロフィー(全身の筋肉が萎縮する病気)で3歳のとき発病しました。普通小学校から小学5年生のときに真駒内にある養護学校へ転校し、14歳から21歳まで国立八雲療養所で療養生活を送っています。地域で自立した生活をし

たいという思いが強く、病院を出て自立生活を送っている知人のアドバイスを受けて、札幌で生活を始めました。その後、独立して同士と一緒に今の仕事を始めた花田さんは、日常生活は他人の全介護が必要で、電動車いすで移動します。体を一定の状態に保つことも容易でなく、呼吸も絶えず人工呼吸器によって行っています。このような彼や彼の同士を強く動かしているのは、エンパワーメントという思想やI・L・イズム(自立生活主義)なのです。

3年前にこの事業所を創設し、市内で自立して生活している障害者20件の介護派遣事業を始めました。障害者が自立生活するためには他人の介護が不可欠で、現在用意されている社会資源を有効に活用する知恵が必要になります。障害者自身による自立生



事業所事務室

エンパワーメントとは

20世紀を代表するブラジルの思想家パウロ・プレイレの提唱により、今では先住民運動や女性運動、あるいは広い意味での市民運動などの場面で用いられるようになった概念です。非常に多義的な概念ですが、この場合、障害者が単に介護や援助の対象にとどまらず、自立した一人の人間としての尊厳に基づき、自分の人生において自己決定をし、自分の人生を生きる力をつけることをさします。

障害によって失ったものや、社会的・経済的抑圧によって能力がないとされてきたパワーを回復していくことがエンパワーメントであり、評判の悪い障害者自立支援法が指向するところも、ここにあるのではありません。

活指導や適切な情報の提供がどれだけ必要なものであるか言うに及びません。今年は、地域の人たちとの交流を目的として6月には「気ままにカフェ」を、8月には「アイエルイズム夏祭り」を事務所の隣で行っています。花田さんは、9月には2回目の「気ままにカフェ」を行いますのでどうかお気軽に参加くださいと話しています。

連絡先 菊水3条4丁目1-40 ☎813-3928

(枝元編集委員)

編集後記

お盆も過ぎ、あの暑い夏もどこかへ行ってしまいました。喧騒の中行われた北京オリンピックも終わり、さわやかな空気の中でじっくりと考えにふける季節がやってきました。私たちは菊水というまちにどんな想いをもっているのでしょうか。(枝元)